

第 20 回蒲生干潟自然再生協議会 協議事項

「コアジサシ繁殖地保全のための造成砂地上面の海浜植物及び堤防付近のクズの除草について」

蒲生干潟自然再生協議会事務局

1. 「コアジサシ繁殖地保全のための造成砂地上面の海浜植物の除草について」

1) コアジサシについて

コアジサシは本州以南に夏鳥として渡って来て、海岸や河川敷で繁殖する。宮城県は繁殖分布の太平洋側北限になっている。環境省－絶滅危惧Ⅱ類（VU）宮城県－絶滅危惧Ⅱ類（VU）。蒲生海岸では 1980 年代に繁殖が観察され、2006 年までは営巣していたが、高潮、カラスや動物に卵を取られるなどが続き、蒲生海岸を選択しなくなっていた。亘理町牛橋河口から鳥の海、閑上、蒲生海岸を行き来して 5 月下旬までに営巣地を選定すると考えられる。

2) 造成砂地の由来

大震災後の導流堤等の復旧工事にあたって、県の河川環境アドバイザー会議の折、工事に出た砂の有効利用として造成砂地整備をお願いし、2021 年 3 月に上面を平らにする工事で造成砂山誕生。目的はコアジサシの繁殖地を高波から守るため。

3) 蒲生海岸におけるコアジサシの繁殖

繁殖場所として新鮮な砂礫地を好む。近年では 2019 年から砂山付近において繁殖が記録され、2021 年に造成砂山が整地されると上面での繁殖も見られた。海浜植物が目立つようになった 2023 年には南側下の工事用道路跡の砂礫地で一時期利用が見られたが、この年から 2024 年まで営巣は行われていない。

	繁殖(2021 以降は砂山)	備考
2019 年	7 月 2 羽巣立ち	1985 年以来 34 年ぶりの繁殖成功
2020 年	3 番が営巣 7 月 18 日孵化、1 羽巣立ち	カメラマンの接近
2021 年	4 月 21 日初認 最大数：約 40 羽(5 月 13 日) 孵化(6 月 18 日、3 羽) 巣立ちまで至らず。	3 月砂山上面を平らにし台地形状となる。 4 月 18 日周囲に保護看板 10 本設置。 上面にカメラマンの立ち入り、カラス、キツネ被害
2022 年	4 月 28 日 3 羽初認 最大数：約 40 羽(7 月 5 日) 営巣数 5 巣、 7 月 20 日 1 羽巣立ち	4 月 17 日保護看板 10 本設置。 <u>7 月 13 日、15 日、22 日大雨、</u> 7 月 24 日観察時にヒナ確認できず。
2023 年	4 月 22 日初認。 4 月 29 日 20 羽 5 月 31 日見当たらなくなる。	4 月 8 日保護看板 10 本、東と南にロープ。
2024 年	営巣確認できず。	

観察からの考察

コアジサシは新鮮な砂礫地に浅いくぼみをつけて卵を数個産む。コロニーをつくり、様々な※天敵に対しては集団で激しい鳴き声と急接近で追い払い行動をする。抱卵期間は約 3 週間。孵化後

数日で巣を離れ、近くの流木陰などに身を寄せ親から給餌を受ける。飛べるようになるまで孵化後3週間程度を要する。営巣地は新鮮な砂礫地の他に採餌場が近い、災害を受けにくい、水はけがよく水没しにくいという観点から造成砂山付近が選ばれている。

整備した造成砂山、立て看板、ロープの設置は、高潮からの営巣地保護や人の立ち入り抑制に一定程度の効果はあった。2023年以降、砂山上面において営巣は行われない。この理由として上面の海浜草地の被覆面積が増大し、コアジサシの営巣環境に適さないことが考えられる。

4) 造成砂地での除草計画(案)

営巣適地を維持、創出する観点から上面の海浜草地の除草を試みたい。具体的には砂山上面全体の1/4程度の範囲を考えている(図1)。

除草で出た草は袋に集め、仙台市のごみ処分施設(今泉工場)に自己搬入する。来年度の繁殖に向け、今回秋から3月までの期間に除草を実施したい。



図1 除草予定地



図2 導流提側から予定地の砂山側面 2025. 5.24



図3 造成砂山上面の草の状況 2025. 5.24

2. 「観察ルート及び堤防付近のクズの除草」について

1) クズについて

マメ科クズ属のつる性の多年草。地上部のつるを刈り取っても地下に根茎が残り、すぐにつるが再生するため長期に及ぶ防除が必要。完全に除去するためには地下茎を掘り起こすか、枯らす必要がある。

2) 現況

堤防から続く草地に広く分布し、ここ数年は特に勢いを感じる。観察ルートを越えて干潟方向に進出しているクズつるも見られ、干潟の自然環境保全の観点から除草の必要性を感じている。

3) 除草計画(案)

観察ルート確保と、干潟方向への進出阻止の観点でクズの試験的除草を試みたい。

時期的には除草の観点からだけだと 3 月～5 月だが、鳥類の繁殖時期や渡りの時期のため草払い機による作業は行わない。つるの剪定により対症的に適宜行う。

成長が止まった後、秋から冬の時期に実施する。

観察ルートに掛かるクズの駆除

- ・ルートに掛かるクズの除去。

干潟側ヨシ原に進出したクズ

- ・人力による駆除を実施。試験的に根茎まで人力で処理する。
- ・地際まで切って根茎に防草剤をしみこませたピンを刺して枯死させる方法があるが防草剤の干潟への影響が考えられるため実施しない。

【クズ除去予定地】

①「北西部防潮堤－残存松」ルート(写真①)

- ・ルートに掛かるクズの伐採。
ルートを含め幅 2 m 程度の幅で除去。

②「旧淡水池脇」観察ルート(写真②)

- ・ルートに掛かるクズの伐採。

③「日和山－旧淡水池」ルート(写真③)

- ・ルートに掛かるクズの伐採。
- ・干潟側ヨシ原に進出したクズの伐採、根茎駆除。☀印

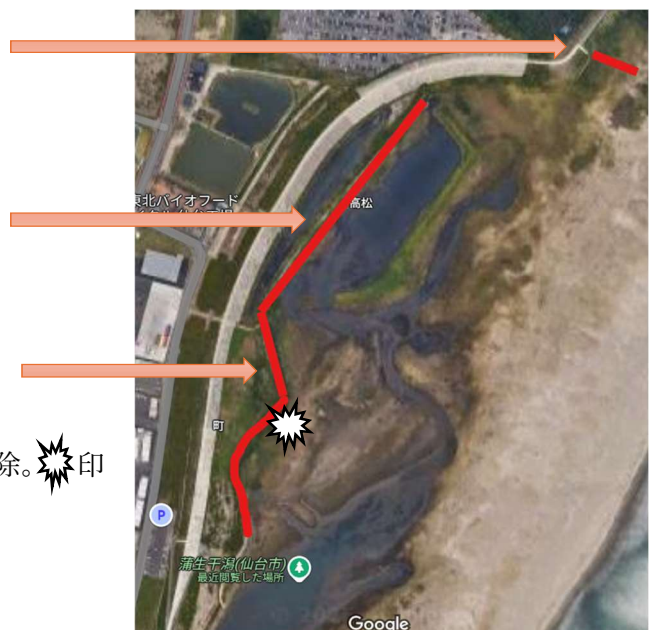


図4 クズ除草予定地



写真①：「北西部防潮堤－残存松」ルート（防潮堤をのぞむ）2025.5.24



写真②：「旧淡水池脇」ルート（写真の左側が旧淡水池）2025.5.24



写真③：「日和山－旧淡水池」ルート。（写真左側が干潟）2025.5.24